

2025 年度

全学部統一入学試験Ⅲ期問題（3月3日）

国語

注意事項

1. 試験開始の合図があるまで、問題冊子を開いてはいけません。
2. 試験中に問題冊子の印刷不鮮明、ページの落丁等に気付いた場合は、手を挙げて監督者に知らせなさい。
3. 解答用紙には解答欄以外に次の記入欄があるので、それぞれ正しく記入し、マークしなさい。正しくマークされていない場合は、採点できないことがあります。

① 受験番号欄

受験番号を英字及び数字で記入し、さらにその下のマーク欄にマークしなさい。

② 氏名欄

楷書でていねいに記入しなさい。

③ 解答科目欄

解答する科目を記入し、さらにその下のマーク欄にマークしなさい。

4. 解答はすべて解答用紙の解答欄にマークしなさい。例えば、

10

と表示のある問いに対して③と解答する場合は、次の例のように解答番号10の解答欄の③をマークしなさい。

(例)

解答番号	解 答 欄
1 0	① ② ③ ④ ⑤ ⑥ ⑦ ⑧ ⑨ ⑩

5. 試験終了後、問題冊子は持ち帰りなさい。

I 次の文章を読んで、以下の問いに答えなさい。

自然との結びつきという点では、日本の建築そのものが構造的に自然に向かって開かれていることはすでに見た通りである。建物の内部と外部が連続しているため、しばしばその間の境界が曖昧となり、内部とも外部ともつかない、いわば中間領域とでも言うべき場所が生まれてくる。軒下と呼ばれる部分などその代表的なものである。

日本の伊勢神宮とアテネのアクロポリスの丘にあるパルテノンの神殿とは、外観上よく似た形状を見せている。(あ)、一方は木造で他方は石造という素材の違いがあるし、スケールの上でも大きな差があるが、柱を主要な支持材としてその上に横材をわたし、三角形の断面を見せる切妻型の屋根をかけるという構造は基本的に同一であり、したがって形状も似たようなものとなる。だがそこには、ひとつだけ大きな違いがある。パルテノン神殿の屋根は建物の平面を覆うところで終わっているが、伊勢神宮の場合、軒先がさらに大きくのびている点である。(い)、ギリシャ神殿には見られない軒下という空間が生じる。このことは、伊勢神宮だけに限らず、一般に日本建築の大きな特徴である(中国の建物にも軒下部分があるが、日本の場合ほど深くはない)。

このことは、日本には雨が多いという(イ)特性に由来するものであるが、そのようにして生まれてきたこの空間が内部か外部かというと、そのあたりがビミョウなのである。それは家の中から見れば一応外部空間ということになるであろうが、そこが物置代わりに使われていたりするのを外から見れば、むしろ内部空間に付属するものとして捉えられる。(う)、庭師たちは、軒下のことを「軒内^{のきうち}」と呼ぶ。外部空間で働く庭師たちにとっては、それは内部に属するものなのである。

このような中間領域として、他にも例えば濡れ縁、渡り廊下のようなものがある。壁という強固な物理的

遮蔽物によって内部と外部を明確に区分する西欧建築とは違って、日本の建築では、これらの中間領域を媒介として、内部は自然に外部へつながっているのである。

（え）、はなはだ興味深いことに、このように内部と外部が連続している空間のなかに住みながら、それにもかかわらず——というよりもむしろ、それであるからこそ——日本人は住まい方において、内と外とを厳しく区別するという行動様式を示す。最もはつきりしたその現われは、家の中にはいる時には靴（または下駄でも草履でも同じことだが）を脱ぐという習慣である。今日のように鉄筋コンクリートのマンションに椅子とテーブルの生活という洋式を採用しているところでも、まずほとんどの日本人はこの風習を守り続けていくであろう。（あ）、西欧社会でも、家に帰れば内履きにはきかえるということはよくあるが、それは私的な環境でくつろぐためであって、例えばお客を迎える時はきちんと靴をはくし、客も靴のまま家の中にはいつても少しも怪しまない。だが日本ではお客に対して靴を脱ぐことを当然のこととして要求するので、慣れない外国人は当惑するということになる。空間構造はつながっているように見えながら、行動様式では内と外は明確に区別されているのである。

このことは、間仕切りの曖昧な家においても同じである。お客に対して、靴の代わりに室内用のスリッパを提供するというのは、今ではごく普通に行われている。だがそのスリッパも、板の間や廊下ならよいが、畳の座敷に上がるときは再び脱がされる。というよりも、普通の日本人なら、スリッパのまま畳の部屋にはいることには、大きな抵抗感があるであろう。あるいは、たいていの家では、便所にはまた別の専用のスリッパがあつて、そこでまたはきかえるということになる。日本人にとっては、それはごく当たり前のことだが、西洋人にはそのような感覚がないから、便所のスリッパのまま畳の部屋にはいりこんで主人をあわてさせたりするのである。

このような家の内と外、部屋の内と外の区別は、（ロ）というよりもむしろ（ハ）なものである。

(お) それは、意識の問題であり、価値観の問題である。

どの社会にも、聖なる空間を大切にする習慣があつて、そのために立派な教会堂や荘厳な神社が建てられる。だが西欧の教会建築は壁によつて内外の区別がはっきりしており、壁の内部は聖なる場所で、壁の外は俗世間ということがかたちの上でも明確だが、日本の神社で聖なる空間を示すものは、(ロ)には境界として何の役にも立たない鳥居である。つまり一步鳥居をくぐれば神の空間であるというのは、もっぱらわれわれの意識の問題なのである。

似たような例として、お寺や日本式料亭の庭の飛石の上に、時に、十文字に縄をかけた小さな石が置かれていることがある。これは関守石と呼ばれるもので、ここから先は立入禁止というしるしである。だがこれも、その気になれば簡単にまたいでいけるもので、(ロ)には何の障碍にもならない。関守石の存在によつて空間が区別されるのは、われわれの意識のなかにおいてである。

このように、眼に見えないかたちで内外の区別が成立するためには、鳥居や関守石の意味についての共通の理解を前提とする。その共通の理解を持った集団、ないしは共同体が日本人にとっては「身内^{みうち}」であり(Ⅰ)であつて、その外にいる者は「よそ者」ということになる。日本の家がしばしば「うち」と呼ばれるように、家族は「身内」の代表的なものであるが、時と場合によつては、それは地域社会であつたり職場の組織であつたりする。サラリーマンが「うちの会社」と言う時は、会社全体が「身内」である。(お)「身内」は、ある関係性のなかで成立するもので、そのことが、日本人の行動様式を外国人にわかりにくいものになっていると言つてよいであらう。関係性は時によつて変わるものだからである。

(ニ)な内部を意味する「うち」という言葉が「身内」のように人間同士の関係性を意味したり、あるいは「朝のうちに仕事をする」という具合に、時間的広がりにも用いられることから明らかなように、日本人にとっては人間社会も空間も時間も関係性という共通した編み目のなかに組み入れられている。同じひ

とつの部屋が、外から人が来れば客間になり、夜になれば寝室となるとというのは、住居の空間もまた、人間や時間との関係で意味を変えることを物語っているであろう。

日本人は、そのような関係性の広がりをも、(Ⅱ) という言葉で呼んだ。「間」とは「広間」「客間」のように空間の広がりでもあり、「昼間」「晴れ間」のように時間的広がりでもあり、また(Ⅰ)のように人間関係の広がりでもある。読み方はさまざまだが、「空間」も「人間」も、そして(Ⅲ)も、いずれも「間」という文字を含んでいるのは、決してグウゼン^Bではない。そのような関係、つまり(Ⅳ)を正しく見定めることが、日本人の行動様式の大きな原理である。その計測を誤ると「間が悪い」ことになり、「間違い」をおかすことになる。現在、われわれの生活様式は大きく変わりつつあるとはいえ、この(Ⅱ)の感覚はなお日本人のあいだに生き続けており、住居の構造や住まい方をも規定している。それはおそらく、日本人の美意識や倫理とも深く結びついているもので、その本質と構造を解明することが日本の文化を理解する大きな鍵となるであろう。

(高階秀爾『西洋の眼 日本の眼』による)

- 問一 (あ) (お) にあてはまる語として最も適切なものを、次の①～⑤のうちからそれぞれ一つ選びなさい。ただし、同じ語は一度しか使えません。解答欄は (あ) が ①、(い) が ②、(う) が ③、(え) が ④、(お) が ⑤ です。
- ① 現に ② もちろん ③ つまり ④ ところが ⑤ その結果

問二 (イ) (ニ) にあてはまる語として最も適切なものを、次の①～⑦のうちからそれぞれ一

つ選びなさい。解答欄は (イ) が 6、(ロ) が 7、(ハ) が 8、

(ニ) が 9 です。

- | | | | | |
|-------|-------|-------|-------|-------|
| ① 空間的 | ② 物理的 | ③ 構造的 | ④ 時間的 | ⑤ 心理的 |
| ⑥ 風土的 | ⑦ 倫理的 | | | |

問三 傍線部 A、B のカタカナを漢字に直した場合の表記として最も適切なものを、それぞれ①～④のうち

から一つ選びなさい。

A	ビミヨウ	10	① 微妙	② 非明	③ 微妙	④ 眉明
---	------	--	------	------	------	------

B	グウゼン	11	① 偶然	② 偶然	③ 寓然	④ 隅然
---	------	--	------	------	------	------

問四 波線部 (a)、(b) の漢字の読みとして最も適切なものを、それぞれ①～④のうちから一つ選びなさい。

(a)	莊巖	12	① ソウゲン	② ショウゲン
-----	----	--	--------	---------

			③ ソウゴン	④ ソウガン
--	--	--	--------	--------

(b)	十文字	13	① ジュウモジ	② トモジ
-----	-----	--	---------	-------

			③ トモンジ	④ ジュウモンジ
--	--	--	--------	----------

- 問五 (I) ((IV) にあてはまる語として最も適切なものを、次の①～④のうちからそれぞれ一つ
選びなさい。ただし、同じ語は一度しか使えません。解答欄は (I) が 14、(II) が
15、(III) が 16、(IV) が 17
です。
- ①「間」 ②「世間」 ③「間合い」 ④「仲間」

問六 次の各文について、本文での著者の主張と一致するものには①を、しないものには②を、どちらも
言えないものには③を選びなさい。

18

鳥居は何の役にも立たない飾りである。

19

西洋の建物では内部が、壁などによって外界からはっきりと区分されているが、これは多
民族社会の中で一つ一つの建物が城の役割をしているからである。

20

日本の建築物は内と外とがつながっていて、日本人は西洋人ほど内と外とを厳密に区別す
る行動様式をもたない。

21

日本では、建物の使い方について、人々の間の暗黙の了解による作法があるので、外国人
には分かりにくいことが多い。

22

日本の伝統的な建築は、庭をその一部として設計されているため、室内の装飾がほとんど
必要ない。

Ⅱ 次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。

鳩がいなくなるとわたしはベンチを立って、急いで公園を出た。少し行くと、やせて青白い顔をした女の人が病院の方からふらふらと歩いてくるのが見えた。ねまきの上にカーディガンをはおっただけで、一目で病人なのがわかる。やせ方が普通でなく、白い枯れ木が服を着ているようで、いかにも頼りない歩き方をしている。入院患者の一人かもしれない。病院の中で出会う患者さんたちも顔色が冴えなくて、いくら見ても見慣れるということがなく、つい視線を奪われるが、外で会うとその三倍も強烈に目立つ。病気というのはやはり普通の状態ではないのだ。

わたしはじろじろ見すぎてはいけないと思い、その人の反対側に顔をそむけて歩いた。歩いているうちに、昔ばあちゃんと暮らしていたころ、台所の隅に細かく刻んだ食パンの耳が、いつも新聞紙の上に広げて干しであつたことを思い出した。食べ残したパンの耳をそうやって溜めて、大きな空き缶にしまっておくのだ。ばあちゃんが死んでもう何年もたつが、あの空き缶は今でも台所のどこかにそのままありそうな気がした。

ばあちゃんは変わり者で、鳩が大嫌いなくせに、^(B)そうやってせつせと鳩のエサをつくることをやめなかった。食パンは好きでよく食べていたが、耳嫌いだった。バターもジャムもつけないで、白い中身だけをくり抜いて食べる。嫌いな耳を嫌いな鳩のエサにするというのは、つじつまがあっているようだが何だかおかしい。それにやるやるといっているだけで、やってきたという話は聞かなかった。近くには鳩はいなかった。どここの鳩にやるのよ、とわたしが聞くと、どこでも鳩のいるところにまいてくればいい、と答えるのだが、そのあとに、でもあたしは嫌いだから鳩なんかどこにいいのか知らない、という憎まれ口が続くのだ。嫌いならエサなんかやることはない。そう思うが、ばあちゃんの考えは違う。鳩だって生きているのだし、生き

るには食べ物が必要。それに世の中には自分のように鳩が嫌いな人間ばかりがいるわけじゃあるまい。好きな人も少しはいるに違いない。好きなだけでエサをやらない人間も多いだろうから、嫌いでもエサをやる人間がいてもいい。それがばあちゃんの言い分だったが、本当はパンの耳でももったいなくて捨てられなかっただけなのかもしれない。

病院の近くまで戻ると、沈丁花のにおいが漂ってきた。どこに木があるのかと目で探したが、見つけたのは沈丁花ではなくて、びっくりするほど大きなヤブツバキだった。沈丁花もヤブツバキもばあちゃんが好きだった花だ。今は両方とも花ざかりの季節だ。病院の二階の窓まで届きそうな大きな木の、その全体に、赤い花がまんべんなくついて、ほどよく開いている。

じいちゃんが入院してから、ばあちゃんのことばかり思いだしている。ばあちゃんが逝ったときはあつという間で、わたしは一日も看病することができなかった。じいちゃんには知らない間に逝ってしまったてほし(1) と思うていたのに、こうして泊り込みで看病する巡りあわせになっている。世の中はうまくいかない。

ツバキには苦い思い出がある。いつだったか、ツバキが咲いたから見に行こうとばあちゃんに誘われて、連れ立ってどこかの公園へ出かけた。ばあちゃんは速く歩けるという理由で折りたたみのステッキを持ち歩いてしたが、その愛用のステッキがほとんど(2) (i) も同然であることを、わたしはそのとき初めて知ったのだった。

たしかにステッキの効果か、ばあちゃんの歩くスピードはかなりのもので、わたしは時には小走りにならなければ追いつけなかった。しかしばあちゃんはそんな早足でツバキのそばに寄ると、いきなりステッキの先を鋭くはね上げるのだった。そのたびに赤い花が次々に飛んだ。ばあちゃんが三メートル歩く間に、叩き落とされた花は、少なく見ても十や十五はあった。ばあちゃんは、何でもしたいことをする人だったがその乱暴さにはさすがにわたしも驚いて、(2) (ii) をあげた。

「何するの」

通る人が眉をひそめ、呆れたような顔をして、振り返っていく。

「何が」

ばあちゃんはうるさそうにわたしの視線を手で払った。

「いつもこんなことしてるの？」

花を落としたのをとがめているのだとわかると、ばあちゃんは鼻で笑った。⁽³⁾

「しなびた花があつたら汚くて気持ち悪いでしょうが。ほら、落としたらずいぶんさっぱりしてきれいになった。花はきれいなものを見るのが楽しみなんだから、汚くっちゃ意味がない」

^(D) 澄ました顔でいいながら、ばあちゃんの目は次の標的を探してツバキの花に向けられていた。

「寿命が来たら落ちるときは自然に落ちるよ。何もわざわざ叩き落としてまわることはないでしょうに」

わたしの頭の中には、夜叉とか鬼婆とか殺人鬼とかいう言葉が無意味にちらちらと浮かんできた。ただのアマノジャクというよりは怖いものがある。

「そうかい。用がすんだのにいつまでもへばりついてるのは未練だらしくていやじゃないか。そういうのはあたしは嫌いなんだ。でもまあ個人の趣味でございますから、汚いのが好きな人もいるんでしょうがね……」

ばあちゃんはむっとすると、そんなふう^(E)に急^(E)にいい言葉づかいを混ぜこんで、突き放すような喋り方になるのだった。そういうときは、聞く耳持たぬという状態なので、黙るしかない。

少し間を置いて、ばあちゃんは「あたしはツバキが好きだからね、汚いとがまんできないんだよ」と弁解する^(F)ように^(F)いくらか声を落としていった。

わたしは勤めるようになると、さつさと家を出て一人暮らしをはじめたが、ツバキ事件にショックを受け

たのも原因のひとつだ。もつとも原因なんか、数えるのも面倒なほどいろいろある。

ばあちゃんのパンの耳は結局どのくらいの量になったのだろうか？ 天井に届くような山になっても、ばあちゃんには捨てることはできなかったのではないだろうか。好きなツバキの花なら容赦なく叩き落とすのに、嫌いなパンの耳は捨てることができない、というのとはどんな心理なのか、生きているうちに一度聞いておけばよかったが、時間は戻らない。戻ったら、おそろしい。時間は使い捨てにして、どんどん新しく変わっていく方が健康的だ。

病院の庭にあるヤブツバキの花は、全部がきれいに咲き揃っている。枯れた花も萎れた花もなく、固いつぼみさえ、見当たらない。地面に落ちた花もない。全部が平均して六、七分の開き加減だ。しかし造花ではあるまいし、そんなにきちつと揃うことがあるのだろうか。わたしは、目を凝らして、しなびた花を探し、あつたらむしり取ろうと考えている自分に気づいて、何だか寒い気持ちになった。^(G)

(増田みず子「鳩」による)

問一 空欄 (i)、 (ii) にあてはまる言葉として最も適切なものを、それぞれ①～④のうちから一つ選びなさい。

(i)	23	① 命綱	② 凶器	③ 伴侶	④ 乗物
(ii)	24	① 悲鳴	② 鳴咽 おえつ	③ 歓声	④ 奇声

問二 傍線部(1)～(3)の意味として最も適切なものを、それぞれ①～④のうちから一つ選びなさい。

(1) 憎まれ口

25

① 人をいらいらさせ不快にさせる物言いのこと

② 他人を煙に巻くような巧みな表現のこと

③ もっともらしく正当化する口のきき方のこと

④ 根拠のないことを言って他人を傷つけること

(2) 眉をひそめ

26

① 驚愕して訴えるようににらみつけ

② さげすむように視線をそらし

③ 怒りを表すように目をつり上げ

④ 不快さを表情に出して顔をしかめ

(3) 鼻で笑った

27

① 自分の行為を得意げに自慢した

② 相手を小ばかにしてせせら笑った

③ へつらうように甘えた声を出した

④ 抗弁し意気盛んなふりをした

問三 傍線部(A)「外で会うとその三倍も強烈に目立つ」のはなぜか。最も適切なものを、次の①～④のうち

から一つ選びなさい。

28

- ① おぼつかない歩き方にたいしこちらまで危険を感じるから
- ② 病院の中にいるときは違う服装をするようになるから
- ③ 明るい自然光に当たることと顔の青白さが際だつから
- ④ ふだん病院外で目にする人と明らかに違った外見だから

問四

傍線部(B)「鳩が大嫌いなくせに、そうやってせっせと鳩のエサをつくることをやめなかった」とあるが、「わたし」はその理由をどのように考えているか。最も適切なものを次の①～④のうちから一つ選びなさい。

29

① 「ばあちゃん」は、人の好みは蓼食う虫も好き好きなのだから反対の立場や考え方をとる人間が存在してもよいとのアマノジャクな主張を展開して自分の行為を正当化していたが、実際のところはたんなる貧乏性だったのかもしれないと、「わたし」は考えている。

② 自分の嫌いな鳩のような生き物を好む人がいるなら、逆にエサをやるような人間がいてもいいとの発想にたつ「ばあちゃん」は、生物である以上食べ物があるのはお互い様だとの考え方をしており、「わたし」も情けは人のためならずという思いから、そうした考えには部分的に共感している。

③ 「ばあちゃん」は、一寸の虫にも五分の魂なので、嫌いな鳩であっても生きるのに当然必要な食べ物を与えてやるほかはなく、そのためには鳩が好きな人と呉越同舟でエサを用意するのもやむをえないとの言い分を述べていたが、実際は節約家としての一面があらわれていたのではないかと、「わたし」は考えている。

④ あばたもえくぼであろうから他人の好みにはあれこれ口を出さないが、鳩にパンの耳をやれば、自分の嫌いな鳩を苦しめつつ、食べ残してしまう食材も無駄にならずに一石二鳥だと「ばあちゃん」は考えていたようだが、実際は偏屈で負けず嫌いなだけだったのではないかと、「わたし」は考えている。

問五 傍線部(C)「世の中はうまくいかない」と「わたし」が感じるのはなぜか。最も適切なものを、次の①

④のうちから一つ選びなさい。

30

① 「ばあちゃん」に関する記憶を払拭できないために「じいちゃん」との関係を断ち切れず、負担感に見舞われながら必死に看病をつづけるなかで、肉体的限界を感じているから

② 都合よく「ばあちゃん」の面倒をみることを避けられたが、かえってそのために「じいちゃん」の看病をする役割が巡ってきてしまい、人生の無常を感じざるをえないから

③ 人の生き死には自分の思い通りには進まないため、看病したいときにはできず、看病したくないときにはかえってその必要が生じて、願いと裏腹の結果になっているから

④ 早い遅いはあっても死という運命からは何もかも逃れられないため、生きつづけてほしいという願いもむなしく、大事な人たちをつぎつぎに看取らなくてはならないから

問六 傍線部(D)「澄ました顔で」とあるが、このときの「ばあちゃん」はどのような様子であるか。それを

説明したものとして最も適切なものを、次の①～④のうちから一つ選びなさい。

31

① 当然のことをしたとばかりに、悪びれた気配がない様子

② 必要以上にきどって、質問に真面目に答えるふりをする様子

③ 雑念を取り払い、自分の信念だけに従おうと決意している様子

④ 一切の感覚器官を麻痺させ、人の言うことを気にかけない様子

問七 傍線部(E)「急にいい言葉づかいを混ぜこんで」話したのはなぜか。最も適切なものを、次の①

④のうちから一つ選びなさい。

32

- ① 口調に変化を付けることで、相手の気持を混乱させ、論理的な破綻を誘導しようとしたから
- ② 礼儀正しく話すことで、心から反省していることを相手に伝え、追及をかわそうとしたから
- ③ 表面上は懇慫な態度をとることで、他人との距離を確保し、かえって怒りを伝えようとしたから
- ④ 落ち着いた言葉づかいをすることで、相手への敬意を伝え、反論を封じ込めようとしたから

問八 傍線部(F)「いくらか声を落として」とあるが、このときの「ばあちゃん」はどのような様子であるか。

それを説明したものとして最も適切なものを、次の①～④のうちから一つ選びなさい。

33

- ① 周囲の目に気づき、通行人に配慮している様子
- ② こみ上げる怒りを懸命に押し殺している様子
- ③ 自分の言動をかえりみて多少悔いている様子
- ④ 秘密を他人に聞かれないようにしている様子

問九 傍線部(G)「何だか寒い気持ちになった」のはなぜか。最も適切なものを、次の①～④のうちから一つ選

びなさい。

34

- ① 花をむしりとる行為が病人の命を奪うことと等しい意味を持ちうることに気づいたから
- ② 「ばあちゃん」と同じく嫌悪すべき行為を自分もしようとしていることに気づいたから
- ③ 看病の疲れから自分が人間として恥ずべき行いをしようとしていることに気づいたから
- ④ ヤブツバキが造花でないことを証明しようとするのが無意味であることに気づいたから

問十 本文の叙述上の特徴を説明した文として最も適切なものを、次の①～④のうちから一つ選びなさい。

35

- ① 会話中に脈絡なく頻出する命令的な口調の描写により、言動の一貫性を求めない「ばあちゃん」の無頓着で勝気な性格が巧みに叙述されている。
- ② 「ばあちゃん」と「わたし」の確執について順を追って意識的に回想していくことで、「わたし」のなかに生じていた葛藤をみずみずしく拾い上げている。
- ③ 接続詞のない文を次々と並べるリズムミカルな文体を用いて、「わたし」の主観を通じて把握された「ばあちゃん」の性格が、いきいきと描き出されている。
- ④ 「ばあちゃん」との大切な日々の思い出が、文末の省略が多用されることで効果的な余韻を与えられた回想文を通じて、印象深く表現されている。

問十一 本文の作者の増田みず子は泉鏡花文学賞を受賞したことがある。泉鏡花の作品として最も適切なものを、次の①～④のうちから一つ選びなさい。

36

- ① 高野聖
- ② 暗夜行路
- ③ 痴人の愛
- ④ 阿部一族

問十二 本文の内容と合致するものとして最も適切なものを、次の①～④のうちから一つ選びなさい。

37

- ① 「わたし」は、他人の価値観や趣味を一切認めることがない自分勝手な「ばあちゃん」を軽蔑し、その死に際しても看病を拒否していた。
- ② 「わたし」は、好きなツバキはもちろん、嫌いな鳩にたいしてさえ慈悲の心をもつ優しい「ばあちゃん」を心から敬愛している。
- ③ 「ばあちゃん」は生物にたいし時に残酷な一面を見せていたが、「わたし」の言うことは何でも聞き入れ、よくかわいがっていた。
- ④ 「ばあちゃん」は好きな花を容赦なく叩き落とすのに、嫌いなパンの耳を捨てることはなかなかできなかった。「わたし」は今でもその気持について思いを巡らせている。

Ⅲ 次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。

コミュニケーションとはメッセージや情報を伝えるために行われるものだ、と一般的には理解されているだろう。しかし、人と人とのコミュニケーションには、単なる情報伝達としてはとらえにくい面がある。例えば「こんにちは」というあいさつを考えてみよう。こうしたあいさつは、何かを伝えるというより、自分と相手との間に関係が保たれていることを確認するためのものだ。(a)、私たちは見知らぬ無関係な人にむやみにあいさつしたりはしない。(b)、知り合いに会ったのに、あいさつもなく無視されると、かわりを拒否されたと受け止めることになる。こうしたかわりを開き、確認するようなコミュニケーションの働きを、言語学者のR. ヤコブソンは交話 (phatic) 機能とよんだ。あいさつに限らず、あらゆるコミュニケーションは、多かれ少なかれ、この交話機能をもっている。(1) や (2) などは、その典型といっているだろう。

さて、ケータイやインターネットでやりとりされるメールは、何かを伝えるという面と、かわりを保つという面では、どちらが強いのだろうか。2000年に行われた全国調査によれば、携帯電話やPHSの音声通話／メールでやりとりされる内容には、大きな違いがみられる。音声通話では「待ち合わせなどの約束や連絡」(68%) や「仕事上の報告、連絡、相談」(38%) といった用件伝達が多いが、メールでは少ない(それぞれ52%、14%)。(c)、メールで多いのは「その時あったできごとや気もちの伝達」(66%) や「とくに用件のないおしゃべり」(41%) など、コミュニケーションそのもの、かわることそのものを目的とした自己充足的なやりとりである(音声通話の場合はそれぞれ21%、18%)。つまり、

(A) i)。

辻大介と三上俊治の行った大学生調査では、ケータイの音声通話／メールに加えて、パソコンでやりとり

されるメールについても調べている（以下、ケータイでやりとりされるメールを「ケータイメール」、パソコンでやりとりされるメールを「パソコンメール」と表記する）。図[※]にあるように、パソコンメールも、ケータイメールと同様に「できごとや気もちの伝達」「特に用件なし」などの自己充足的なやりとりが、音声通話に比べて明らかに多い。（ ii ）。

しかし一方で、パソコンメールの場合は、音声通話そしてケータイメールに比べても、「待ち合わせの連絡」や「遊びの誘い」が少ない。このことは、パソコンメールが待ち合わせや一緒に遊ぶことの少ない相手とのかかわり（電子空間だけの対人関係）において用いられ、ケータイメール（および音声通話）が対面的なかわりと並行して用いられている様子をうかがわせる。実際、この調査では、いわゆる「メル友」（主にメールをやりとりするだけで、あまり会わない・会ったことのない友だち）のいる比率は、ケータイメール利用者の場合、15%程度にとどまった。それに対して、パソコンメール利用者では40%前後に上っている。

つまり、（ iii ）わけだ。むろん、オンライン上で知り合って、その後、オフラインでも実際に会うケースもあるので、この区別は厳密なものではないが、おおよそのところ、パソコンメール／ケータイメールの性格の違いは、かかわりの拡大／補強のメディアととらえておいていいだろう。

それでは、人は電子的なかわりを、どういう場で、どういうきっかけで広げていくのだろうか。まず思い浮かべられるのは、いわゆる出会い系サイトや友だち募集サイトかもしれない。（ d ）、橋元良明らの全国調査によれば、そういったサイトにアクセスする率はせいぜいインターネット利用者の2〜4%にすぎない。むしろ多いのは、電子掲示板（BBS: Bulletin Board System）のやりとりで知り合ったり、ホームページをみて興味を引かれ、その開設者にメールを送ったりする場合のようだ。

橋元らの調査では、インターネット利用者の約4割が電子掲示板サイトにアクセスしており、そのうちの

がりを広げていくことのできるシステムが組まれている。非匿名的な出会い系サイトといってもいいだろう。インターネットにはしばしば電子的公共圏としての役割が期待されるが、こうした日本の動向をみる限りでは、（ vi ）。

（辻大介「かわりの電子メディア」『自己と他者の社会学』による）

※ 図は問四の問題になっている。

問一 空欄（ a ）（ d ）にあてはまる言葉として最も適切なものを、それぞれ①～④のうちから一つ選びなさい。

（ a ）	38	① だから	② もしくは	③ それでは	④ だが
（ b ）	39	① なぜなら	② 要するに	③ 逆に	④ まず
（ c ）	40	① 例えば	② したがって	③ 一方	④ その上
（ d ）	41	① ただし	② だが	③ ならびに	④ ところで

問二 空欄（ 1 ）（ 2 ）にあてはまる言葉として最も適切なものを、次の①～⑤のうちから二つ選びなさい。ただし、解答の順序は問わない。

42	・	43
----	---	----

- ① 自己紹介
- ② 世間話
- ③ 大学行事に関する連絡
- ④ 他愛もないおしゃべり
- ⑤ 仕事の報告

問三 空欄（ i ）にあてはまる文として最も適切なものを、次の①～④のうちから一つ選びなさい。

44

① メールは、コミュニケーションそのものが目的ではなく、情報伝達のメディアとして用いられているのだ

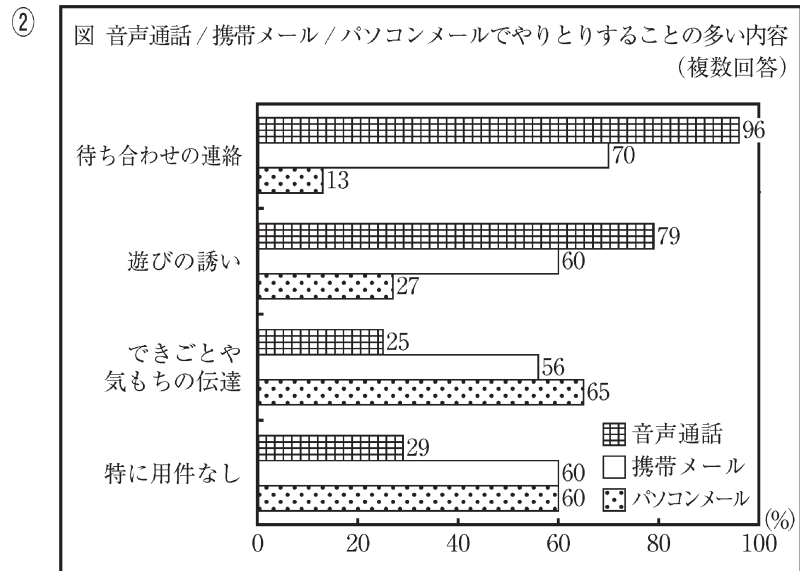
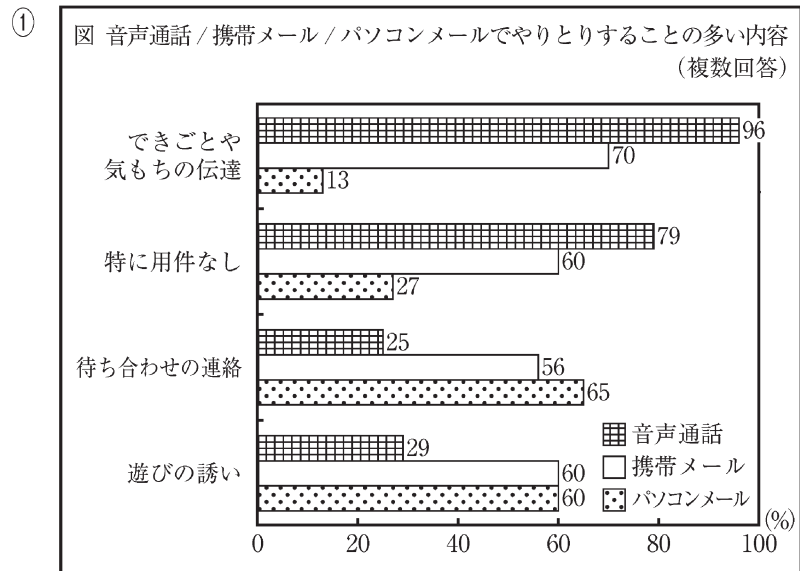
② メールは、かわりのメディアというよりは、情報伝達のメディアとして用いられているのだ

③ メールは、何かを伝えるためのかわりのメディアとして用いられているのだ

④ メールは、情報伝達のメディアという以上に、かわりのメディアとして用いられているのだ

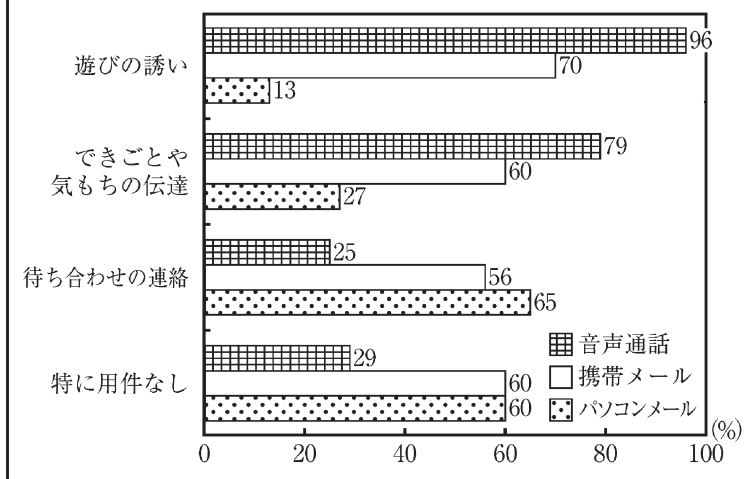
問四 傍線部(A)「辻大介と三上俊治の行った大学生調査」の結果を表す図として正しいものを、次の①～④のうちから一つ選べなさい。

45



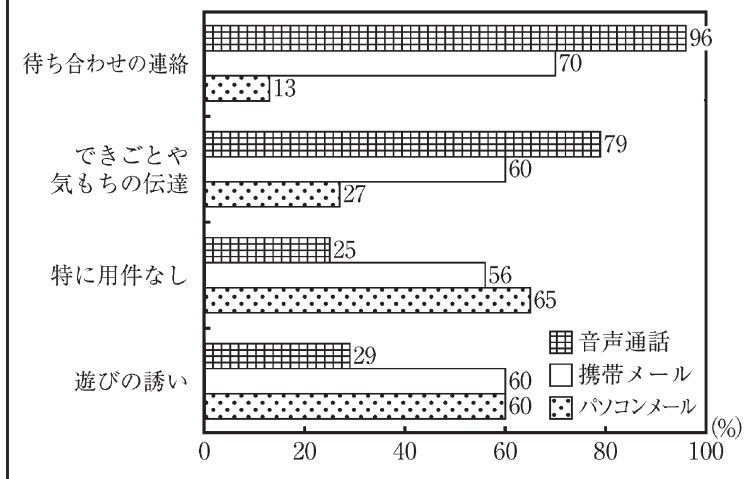
③

図 音声通話／携帯メール／パソコンメールでやりとりすることの多い内容
(複数回答)



④

図 音声通話／携帯メール／パソコンメールでやりとりすることの多い内容
(複数回答)



問五 空欄（ ii ）にあてはまる文として最も適切なものを、次の①～④のうちから一つ選びなさい。

46

- ① パソコンメールは情報伝達のメディアという役割を果たしているといえるだろう
- ② パソコンメールもやはりかわりのメディアという性格が強いといえるだろう
- ③ パソコンメールもケータイメールも音声通話より便利だといえるだろう
- ④ パソコンメールよりケータイメールの方が音声通話に近いといえるだろう

問六 空欄（ iii ）にあてはまる文として最も適切なものを、次の①～④のうちから一つ選びなさい。

47

- ① パソコンメールが既存の人間関係を補強してくれるメディアであるのに対して、ケータイメールは新しい人脈を模索し、そのかわりを拡大していくメディアである
- ② パソコンメールがオフラインでのかかわりを補強してくれるメディアであるのと同様に、ケータイメールも既存の人間関係を補強してくれるメディアである
- ③ パソコンメールが新たなかわりを開き、広げていくメディアであるのに対して、ケータイメールはすでに顔見知りの相手とのかかわりを補完し、強めていくメディアである
- ④ パソコンメールが新たなかわりを開き、広げていくメディアであるのと同様に、ケータイメールも新しい人間関係を構築し、そのかわりを拡大していくメディアである

問七 空欄（ア）（エ）にあてはまる語の組み合わせとして最も適切なものを、次の①～④のうちから一つ選びなさい。

48

- | | | | | | | | | |
|---|---|--------|---|--------|---|--------|---|--------|
| ① | ア | 被理解満足 | イ | 對自己効用 | ウ | 自己表現満足 | エ | 対関係効用 |
| ② | ア | 対関係効用 | イ | 被理解満足 | ウ | 對自己効用 | エ | 自己表現満足 |
| ③ | ア | 對自己効用 | イ | 自己表現満足 | ウ | 対関係効用 | エ | 被理解満足 |
| ④ | ア | 自己表現満足 | イ | 對自己効用 | ウ | 対関係効用 | エ | 被理解満足 |

問八 空欄（iv）にあてはまる文として最も適切なものを、次の①～④のうちから一つ選びなさい。

49

- ① ウェブ日記は確かに自己の表現に対する満足を得るために書き続けるものなのだ
- ② ウェブ日記はむしろ他者とのかわりの満足を得るために書き続けるものなのだ
- ③ ウェブ日記はどちらかというと自分の考えを整理するために書き続けるものなのだ
- ④ ウェブ日記は実は読み手のフィードバックを論破するために書き続けるものなのだ

問九 空欄（v）にあてはまる文として最も適切なものを、次の①～④のうちから一つ選びなさい。

50

- ① 私的な内容を友人や知人にだけ公開する
- ② 私的な内容を友人や知人など他者のサイトにリンクできるような技術を展開する
- ③ 私的な内容を不特定多数に開かれたコミュニケーションの場に公開する
- ④ 公的な内容を私的なウェブ日記という場に公開する

問十 空欄（ vi ）にあてはまる文として最も適切なものを、次の①～④のうちから一つ選びなさい。

51

- ① 確かにウェブ日記の公開などを通し、様々な情報を伝えるためのメディアに近いのが現状であるように思える
- ② むしろ「私」を発信し、他者との私的なかわりを媒介するメディアに近いのが現状であるように思える
- ③ そのためには実名の公開が必要不可欠なメディアというのが現状であるように思える
- ④ 確かに友人・知人の紹介により広がる他者との公的なかわりを推進するメディアというのが現状であるように思える

このページは空白です

このページは空白です

このページは空白です

